

# 協議会での検討事項と 今後の進め方

令和2年9月  
静岡河川事務所

1. 流域治水プロジェクトについて ……P.2
2. 安倍川流域における令和元年東日本台風を  
外力とした被害想定及び令和2年7月豪雨状況 ……P.4
3. 安倍川流域治水協議会について ……P.10
4. 協議会での検討事項と今後の進め方 ……P.12

# 1. 流域治水プロジェクトについて 1/2

## 【背景】

- 令和元年東日本台風をはじめ、平成30年7月豪雨や令和2年7月豪雨など近年激甚な水害が頻発。
- さらに、今後、気候変動による降雨量の増大や水害の激甚化・頻発化が予測。
- このような水災害リスクの増大に備えるために、河川・下水道等の管理者が主体となって行う対策に加え、氾濫域も含めて一つの流域として捉え、その河川流域全体のあらゆる関係者が協働し、流域全体で水害を軽減させる治水対策、**「流域治水」への転換**を進めることが必要。

流域治水プロジェクトを示し、ハード・ソフト一体の事前防災対策を加速していくことが、国土交通省「総力戦で挑む防災・減災プロジェクト」において示される。



流域治水協議会

## 【目的】

- 流域全体で緊急的に実施すべき流域治水対策の全体像を「流域治水プロジェクト」として策定・公表し、流域治水を計画的に推進

# 1. 流域治水プロジェクトについて 2/2

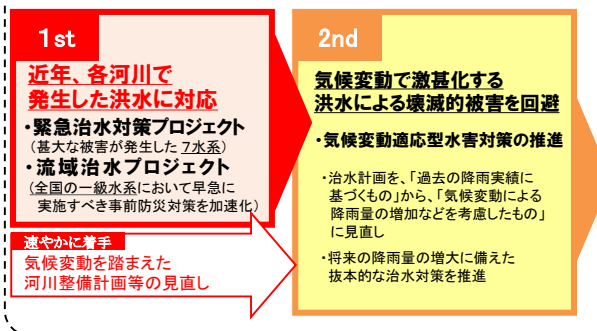
## 課題

◆ 気候変動による水災害リスクの増大に備えるためには、これまでの河川管理者等の取組だけでなく、流域に関わる関係者が、主体的に取組む社会を構築することが必要

## 対応

- ◆ 河川・下水道管理者等による治水に加え、あらゆる関係者（国・都道府県・市町村・企業・住民等）により流域全体で行う治水「**流域治水**」へ転換
- ◆ 令和元年東日本台風で甚大な被害を受けた7水系の「緊急治水対策プロジェクト」と同様に、全国の一級水系でも、流域全体で早急に実施すべき対策の全体像「**流域治水プロジェクト**」を示し、ハード・ソフト一体の事前防災対策を加速
- ◆ 戦後最大洪水に対応する国管理河川の対策の必要性・効果・実施内容等をベースに、夏頃までに関係者が実施する取組を地域で中間的にとりまとめ、「**流域治水プロジェクト**」を令和2年度中に策定

## 今後の水害対策の進め方（イメージ）



## 全国7水系における「緊急治水対策プロジェクト」

◆ 令和元年東日本台風（台風第19号）により、甚大な被害が発生した7水系において、国・都県・市区町村が連携し、今後概ね5～10年で実施するハード・ソフト一体となった「緊急治水対策プロジェクト」に着手。

水系名	河川名	緊急治水対策プロジェクト (概ね5～10年で行う緊急対策)		
		事業費	期間	主な対策メニュー
阿武隈川	阿武隈川上流	約1,840億円	令和10年度まで	【ハード対策】 河道掘削、遊水地整備、堤防整備 【ソフト対策】 支川に危機管理型水位計及びカメラの設置、浸水リスクを考慮した立地適正化計画展開 等
	阿武隈川下流			
鳴瀬川	吉田川	約271億円	令和6年度まで	【ハード対策】 河道掘削、堤防整備 【ソフト対策】 浸水想定地域からの移転・建替え等に対する支援 等
荒川	入間川	約338億円	令和6年度まで	【ハード対策】 河道掘削、遊水地整備、堤防整備 【ソフト対策】 高台整備、広域避難計画の策定 等
那珂川	那珂川	約665億円	令和6年度まで	【ハード対策】 河道掘削、遊水地整備、堤防整備 【ソフト対策】 霞堤等の保全・有効活用 等
久慈川	久慈川	約350億円	令和6年度まで	【ハード対策】 河道掘削、堤防整備 【ソフト対策】 霞堤等の保全・有効活用 等
多摩川	多摩川	約191億円	令和6年度まで	【ハード対策】 河道掘削、堰改築、堤防整備 【ソフト対策】 下水道樋管等のゲート自動化・遠隔操作化 等
信濃川	信濃川	約1,768億円	令和9年度まで	【ハード対策】 河道掘削、遊水地整備、堤防整備 【ソフト対策】 田んぼダムなどの雨水貯留機能確保、マイ・タイムライン策定推進 等
	千曲川			
合計		約5,424億円		

※令和2年3月31日 HP公表時点

## 全国の各河川で「流域治水プロジェクト」を公表

- ◆ 全国の一級水系において、河川対策、流域対策、ソフト対策からなる流域治水の全体像をとりまとめ、国民にわかりやすく提示
- ◆ 戦後最大洪水に対応する国管理河川の対策の必要性・効果・実施内容等をベースに、プロジェクトを策定し、ハード・ソフト一体の事前防災を加速

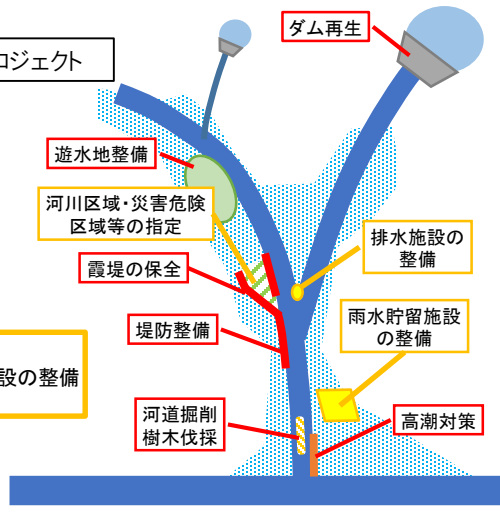
## 【イメージ】 ○○川流域治水プロジェクト

- ★ 戦後最大（昭和XX年）と同規模の洪水を安全に流す
  - ★ 浸水範囲（昭和XX年洪水）
- （対策メニューのイメージ）

■ **河川対策**  
・堤防整備、河道掘削  
・ダム再生、遊水地整備 等

■ **流域対策（集水域と氾濫域）**  
・下水道等の排水施設、雨水貯留施設の整備  
・土地利用規制・誘導 等

■ **ソフト対策**  
・水位計・監視カメラの設置  
・マイ・タイムラインの作成 等

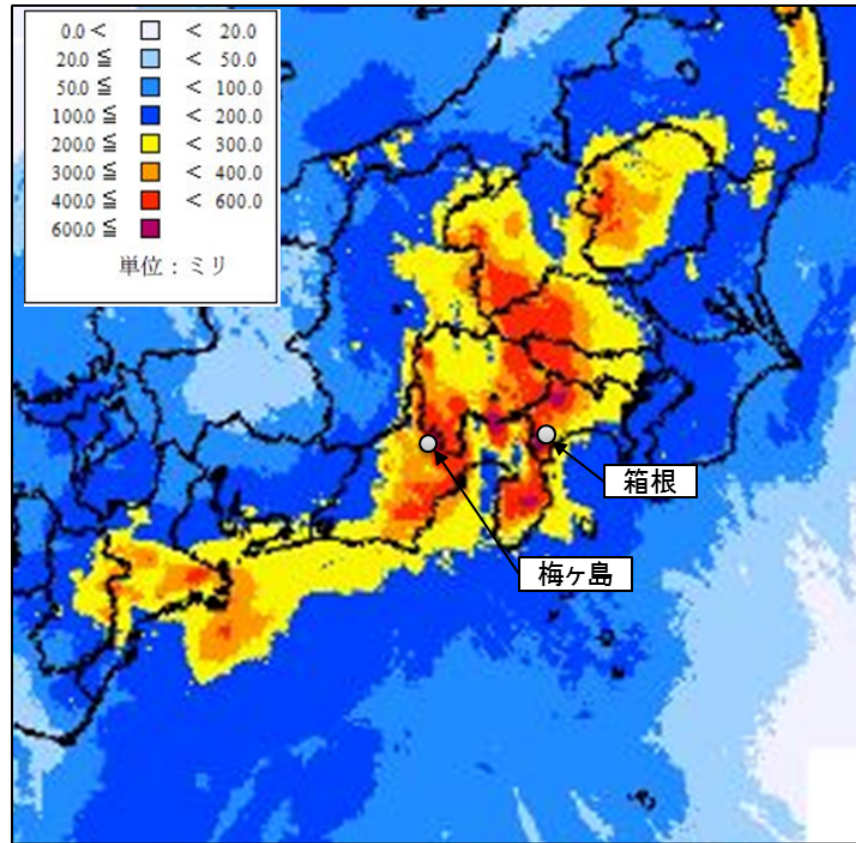


# 2. 令和元年東日本台風を外力とした被災想定 1/6

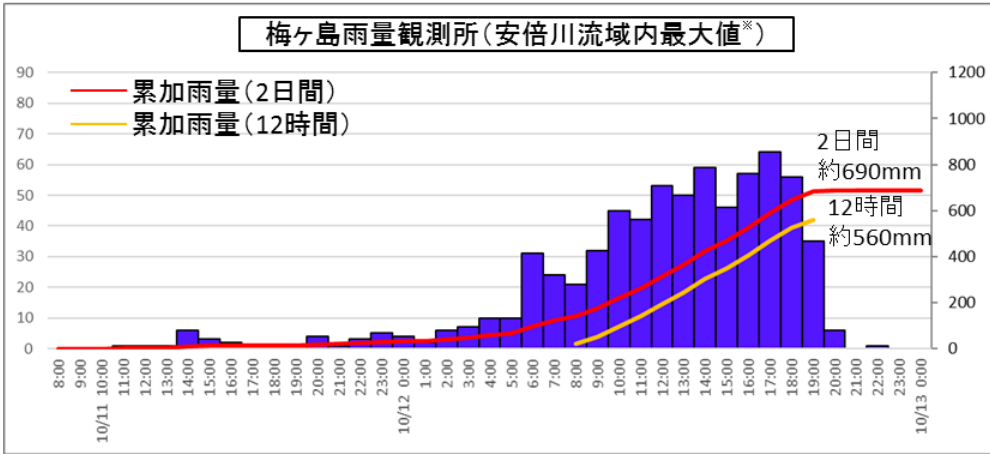
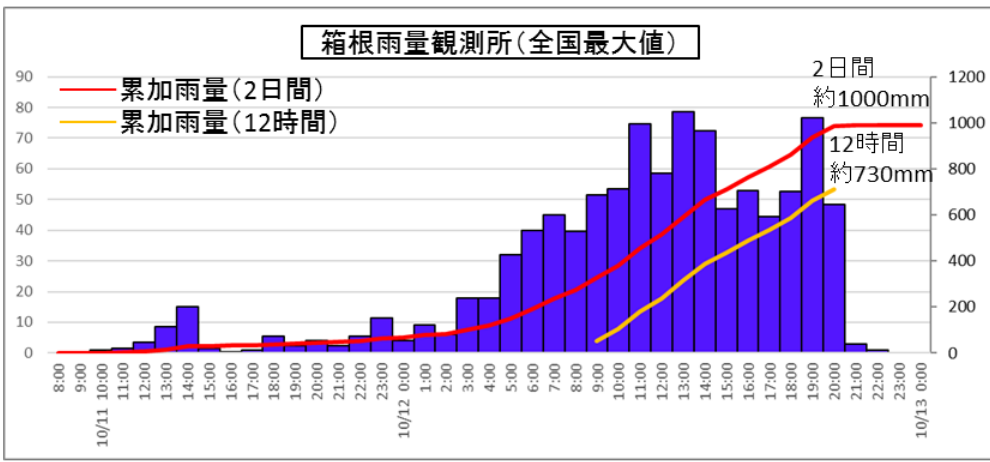
- 台風第19号の接近・通過により神奈川県箱根町では**全国最大値となる2日間で約1000mm、12時間で約730mmの降雨**が観測された。
- **安倍川流域内**では梅ヶ島観測所で**12時間降雨約560mmが観測**される豪雨となり、これは**近30年で最大の降水量**であった。

## 台風第19号時の降水量

○台風第19号による48時間降水量図(10/12 20:00時点)



出典：台風第19号による大雨、暴風等R1.10.15(気象庁)を加筆

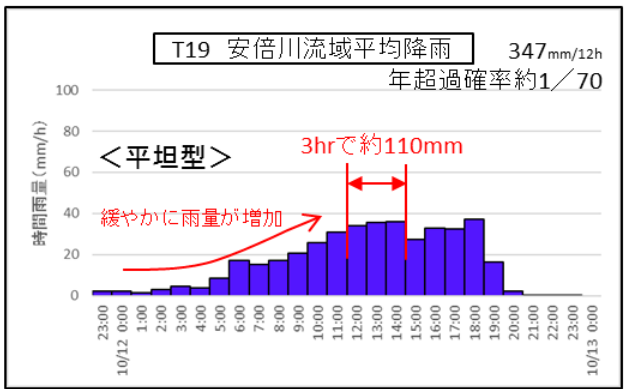
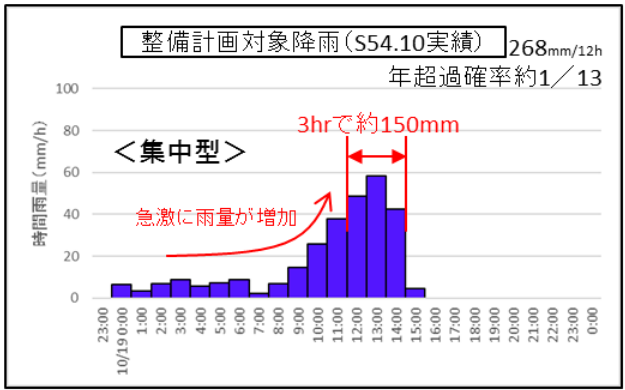


※ 主要観測所9箇所内での最大値

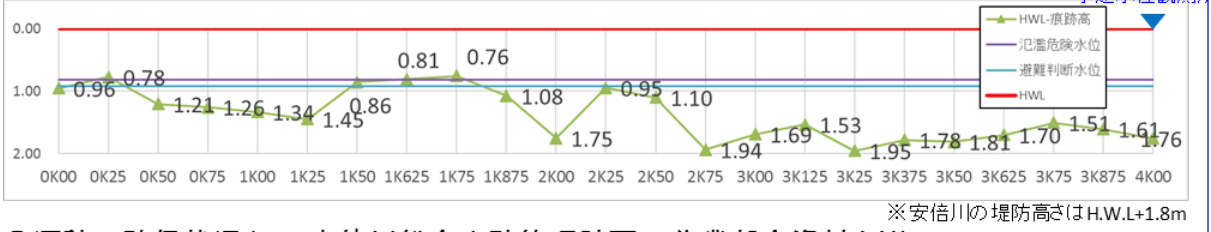
# 2. 令和元年東日本台風を外力とした被災想定 2/6

- 現在、安倍川では、観測史上最大流量を記録したS54（1979）年10洪水（流域平均268mm/12hr [年超過確率約1/13]）と同規模を安全に流下させることを目標に整備を進めている。
- 今回の台風第19号では、安倍川の流域平均で347mm/12hr [年超過確率約1/70]があったものの、整備計画対象降雨（s54. 10実績）に比べて緩やかに雨量が増加し、短時間に降雨が集中しなかったため、幸い河川の水位レベル2（出動水位超過）にとどまり、氾濫による被害は発生しなかった。
- しかし、近年の降雨の特性を鑑みると、S54年10月の洪水のように急激に雨量が増加し、降雨が集中する可能性は高く、そのような降雨が発生した場合、現在の河積の確保状況ではH.W.Lを越えると考えられる。（T19では水位がH.W.Lに約0.8mまで迫る）
- さらに、今回の出水により土砂が数十万m<sup>3</sup>堆積した可能性がある。

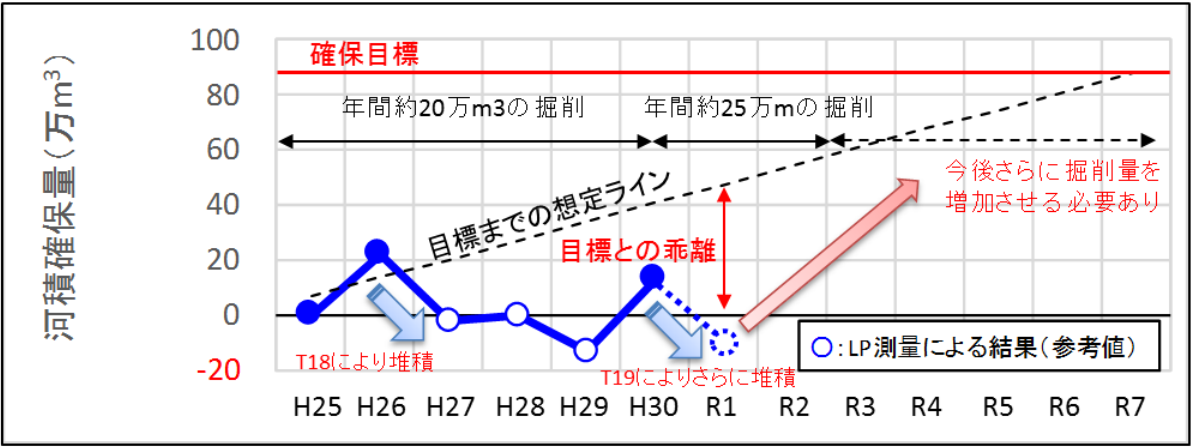
○S54.10降雨とT19の降雨の比較



○台風台19号の洪水痕跡



○河積の確保状況 (H30安倍川総合土砂管理計画FU作業部会資料より)



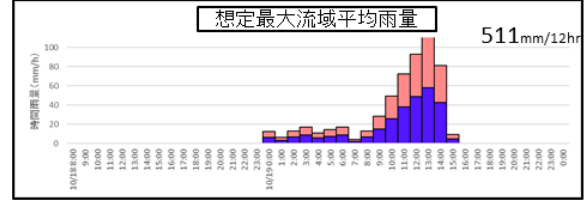
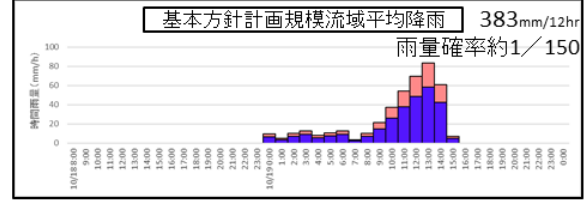
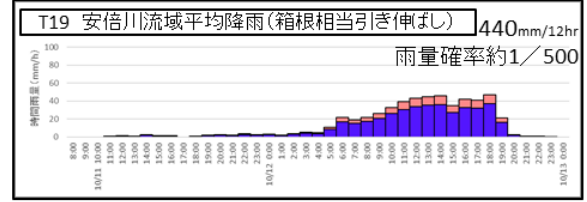
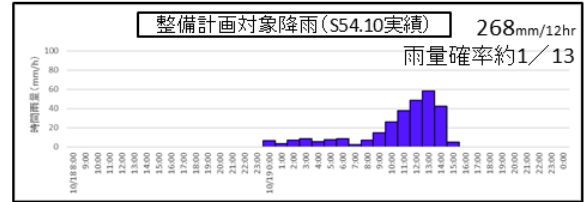
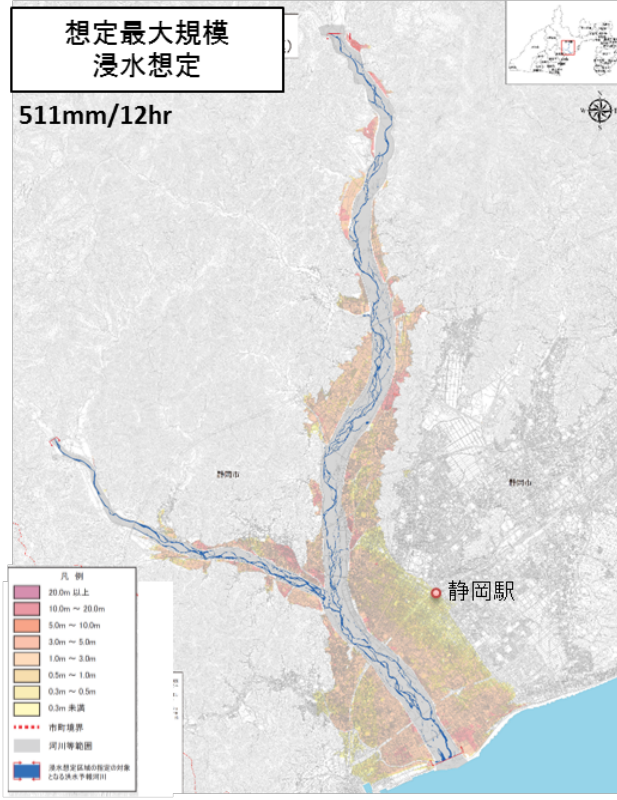
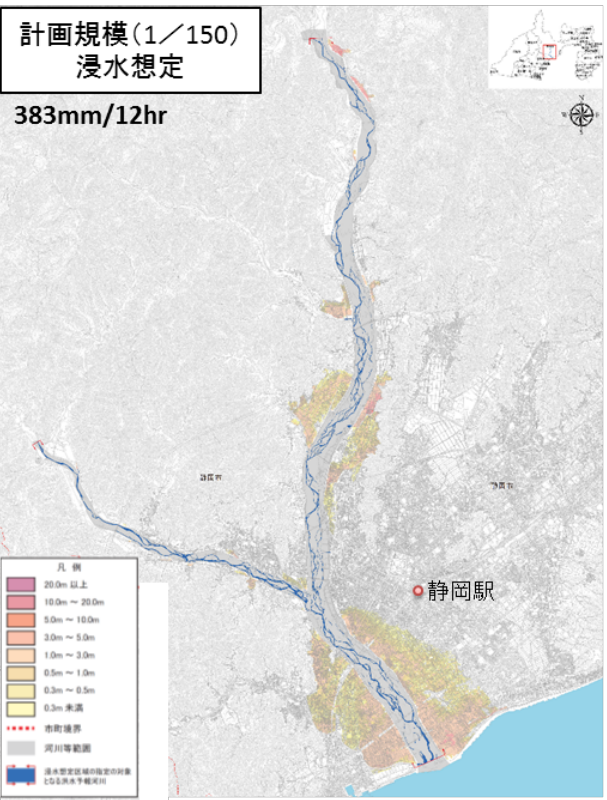
河積確保の目標を達成出来ていないため、3カ年の緊急対策として年間掘削量をこれまでの20万m<sup>3</sup>から25万m<sup>3</sup>に増やしたが、今回のT19号による出水によりさらに掘削する必要が出てきた可能性がある。



# 2. 令和元年東日本台風を外力とした被災想定 3/6

- 最近の降雨の局地化・集中化・激甚化の傾向を踏まえると、常に最悪のシナリオを想定し、河道掘削等のハード対策と避難などのソフト対策を推進していくことが必要。
- 仮に、神奈川県箱根で観測されたのと同程度の降雨が、安倍川流域梅ヶ島観測所付近に来襲したとすると、流域平均で **440mm/12hr [年超過確率約1/500]** の降雨となる。
- この440mm/12hrは安倍川流域での現在の整備目標268mm/12hrはもとより、**将来目標である『基本方針の計画降雨』である383mm/12hrを大きく上回る規模。**

## 台風第19号の最大降雨が安倍川流域に降った場合の被害想定



箱根相当の降雨が安倍川に來襲した場合、計画規模～想定最大規模程度の被害が発生した可能性がある。



# 2. 令和元年東日本台風を外力とした被災想定 4/6

- 安倍川は、急流河川で流速が速く、また、土砂を多量に含んでいるため、出水後河床に大量の土砂が堆積し、土砂堆積を起因とする偏流による河岸侵食、堤防の一部流出が生じやすいという特性を有している。
- また、堤防が決壊すれば、洪水とともに大量の砂礫が流れ込んでくるため、災害復旧は長期に及ぶ恐れあり。

## 安倍川の過去の被災

【令和元年台風第19号】  
左岸14k河岸侵食



【平成12年9月洪水】  
左岸12k河岸侵食



【昭和57年8月洪水】  
堤防の一部が被災



【平成23年7月洪水】  
牛妻16k付近左岸



＜大正3年静岡大洪水の被害＞  
安倍川の洪水と治水に関するノート(著:北川光雄)では、大正3年の大洪水について、「松富から菖蒲ヶ谷にかけての水田は一面の河原のように砂礫の堆積がいちぢるしかったことは...(後略)」と記載されている。

＜安倍川の河床＞  
洪水とともにこれらの砂礫が流れ込んでくる事が想定される。

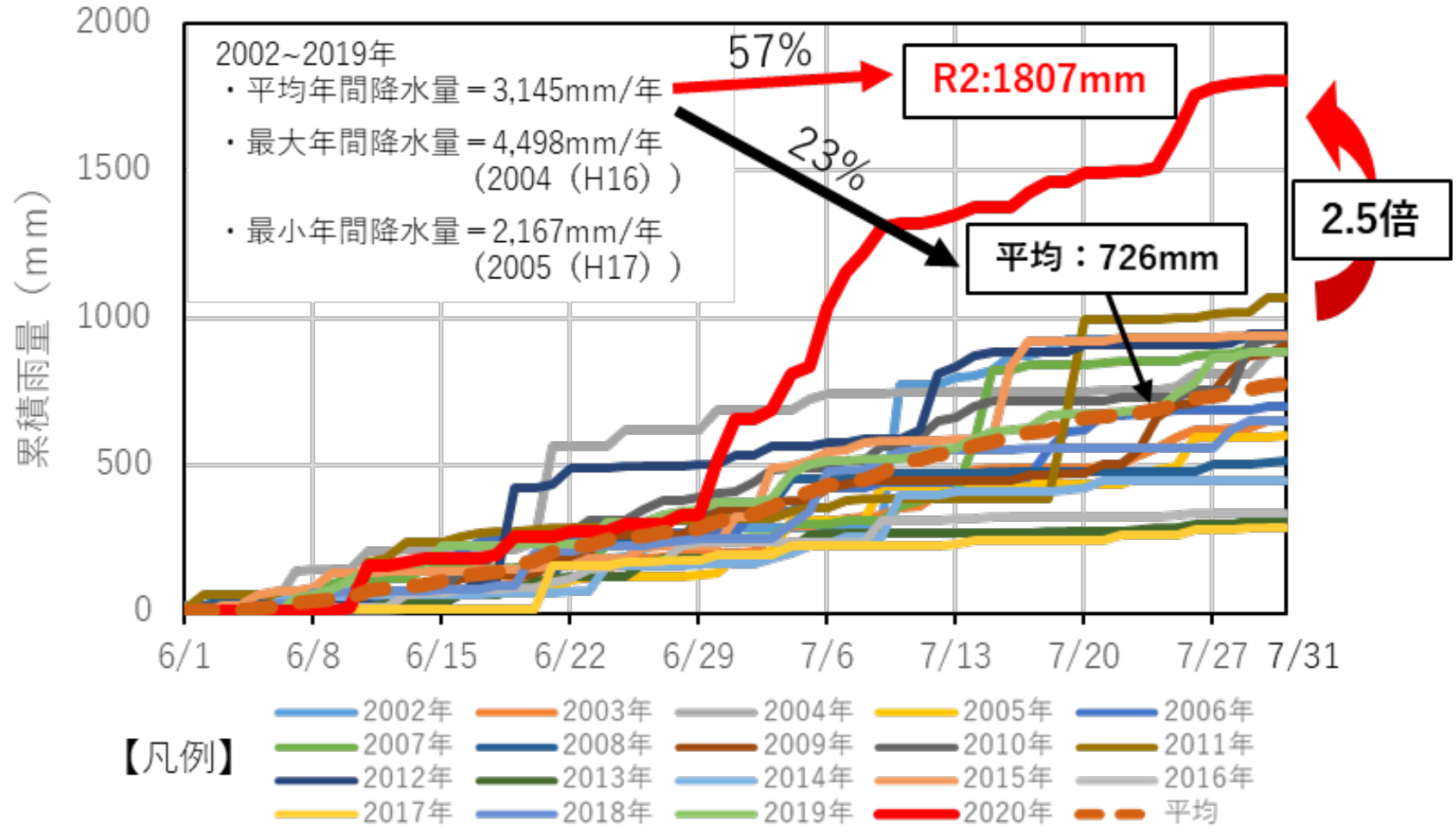




# 2. 安倍川流域における令和2年7月豪雨状況5／6

令和2年6月から7月の累積雨量は**過去19年間(2002年～2020年)で最大となり**、平年の約2倍強の降水量を記録した。また、日最大雨量、2日最大雨量では平均をやや上回る値で、幸い集中豪雨とはならなかったため、九州地方のような大災害には至らなかった。

安倍川流域 安倍川島雨量観測所



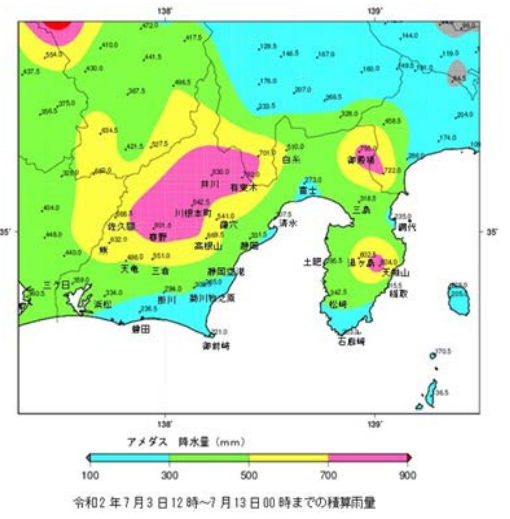
# 2. 安倍川流域における令和2年7月豪雨状況6／6

・7月3日から12日にかけて中国大陸から日本のはるか東へのびる梅雨前線が本州付近に停滞し、この前線を低気圧が次々と通過した。このため、南から暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となり、断続的に大雨となった。

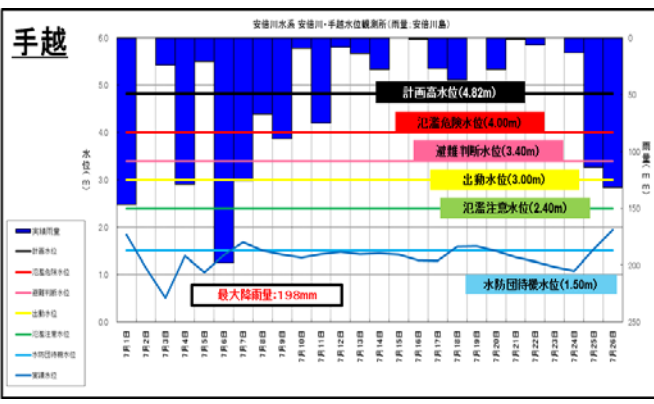
・静岡県では、4日未明から昼前にかけて、6日夜遅く、9日明け方から朝、11日夜遅くから12日未明にかけて、中部、西部、東部の山地を中心に非常に激しい雨となった。降り始め(7月3日12時)から降り終わり(7月13日00時)までの総降水量は、川根本町で**842.5**ミリ、静岡市井川で**830.0**ミリを観測した。

・また、**静岡県には南西海上から多量の水蒸気が流入しやすい状態が継続し**、地形の影響で特に山地を中心に**総降水量が多くなった**。

## アメダス積算降水量分布図



## 安倍川の水位・雨量



水位：手越水位観測所  
 雨量：安倍川島観測所  
 (期間：7/1～7/26)

## 被災箇所の被害想定



## 安倍川・藁科川における被災状況



静岡市下川原地先(安倍川右岸1.5k)  
 7/16 9:40頃現地調査



静岡市牧ヶ谷地先(藁科川右岸0.5k)  
 7/28 11:30頃現地調査



### 3. 安倍川流域治水協議会について 1/2

#### 【目的】

近年、令和元年東日本台風をはじめとした激甚な水害が発生するなど、気候変動により、水害が激甚化・頻発化している

このため、安倍川流域において、あらゆる関係者が協働して「**流域治水**」(流域全体で水害を軽減させる治水対策)を計画的に推進するための協議・情報共有を行う

#### 【協議会の構成】

協議会は、別表－1の職にある者をもって構成する  
必要に応じて、構成員を追加できるものとする

#### 【協議会の実施事項】

- 1 安倍川流域で行う流域治水の全体像の共有・検討
- 2 河川に関する対策、流域に関する対策、避難・水防等に関する対策を含む  
**「流域治水プロジェクト」の策定と公表**
- 3 「流域治水プロジェクト」にもとづく対策の実施状況のフォローアップ
- 4 その他、流域治水に関して必要な事項

#### 【幹事会】

協議会の円滑な運営を行うため、協議会に幹事会を置く  
幹事会は別表－2の職にある者をもって構成する

#### 【検討会】

幹事会の下に広域的な流域治水検討を行うための検討会を設置できるものとする

### 3. 安倍川流域治水協議会について 2/2

安倍川流域治水協議会 構成員(案)

別表－1

機 関 名	役 職 名
静岡市	市 長
静岡県 静岡土木事務所	事務所長
静岡河川事務所	事務所長

安倍川流域治水協議会 幹事会 構成員(案)

別表－2

機 関 名	役 職 名
静岡市 建設局 土木部 河川課	課 長
静岡市 都市局 都市計画部 都市計画課	課 長
静岡市 上下水道局 下水道部 下水道計画課	課 長
静岡県 交通基盤部 河川砂防局 河川企画課	課 長
静岡県 静岡土木事務所	次長(技術)
静岡河川事務所	副所長(調査)



# 4. 協議会での検討事項と今後の進め方 1/3

## 安倍川流域治水プロジェクト【素案】

R2.7.6公表資料

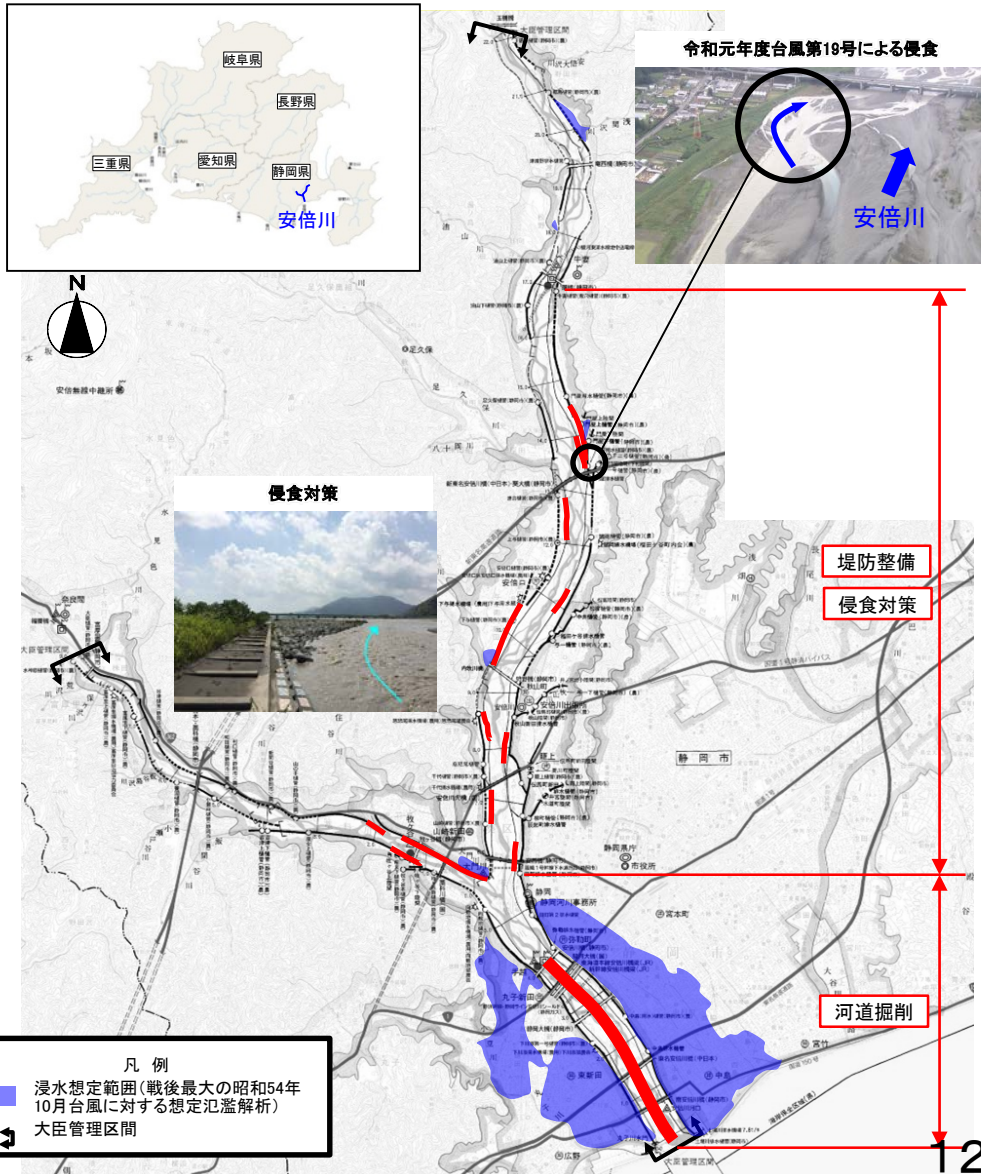
～先人の知恵に学び備える、静岡市街地を守る治水対策～

○令和元年東日本台風では、戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、安倍川水系においても、事前防災対策を進める必要があることから、以下の取り組みを実施していくことで、戦後最大の昭和54年10月洪水を安全に流し、流域における浸水被害の軽減を図る。また、急流土砂河川である安倍川では、河道掘削を行うとともに、侵食による堤防決壊が想定されるため、侵食対策についてもあわせて実施していく。

**■河川における対策**  
 国の対策内容 河道掘削、堤防整備、侵食対策等  
 ※今後、関係機関と連携し、県管理区間の河川改修を追加予定

**■流域における対策のイメージ**  
 ・下水道等の排水施設、雨水貯留施設の整備  
 ・土地利用規制・誘導(災害危険区域等) 等  
 ※今後、関係機関と連携し対策検討

**■ソフト対策のイメージ**  
 ・水位計・監視カメラの設置  
 ・マイ・タイムラインの作成 等  
 ※今後、関係機関と連携し対策検討



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

## 4. 協議会での検討事項と今後の進め方 2/3

### 1 地区毎での対策抽出

- ・各地区（自治体単位を想定）において実施されている対策（案）を抽出  
※河川における対策、流域における対策、ソフト対策など

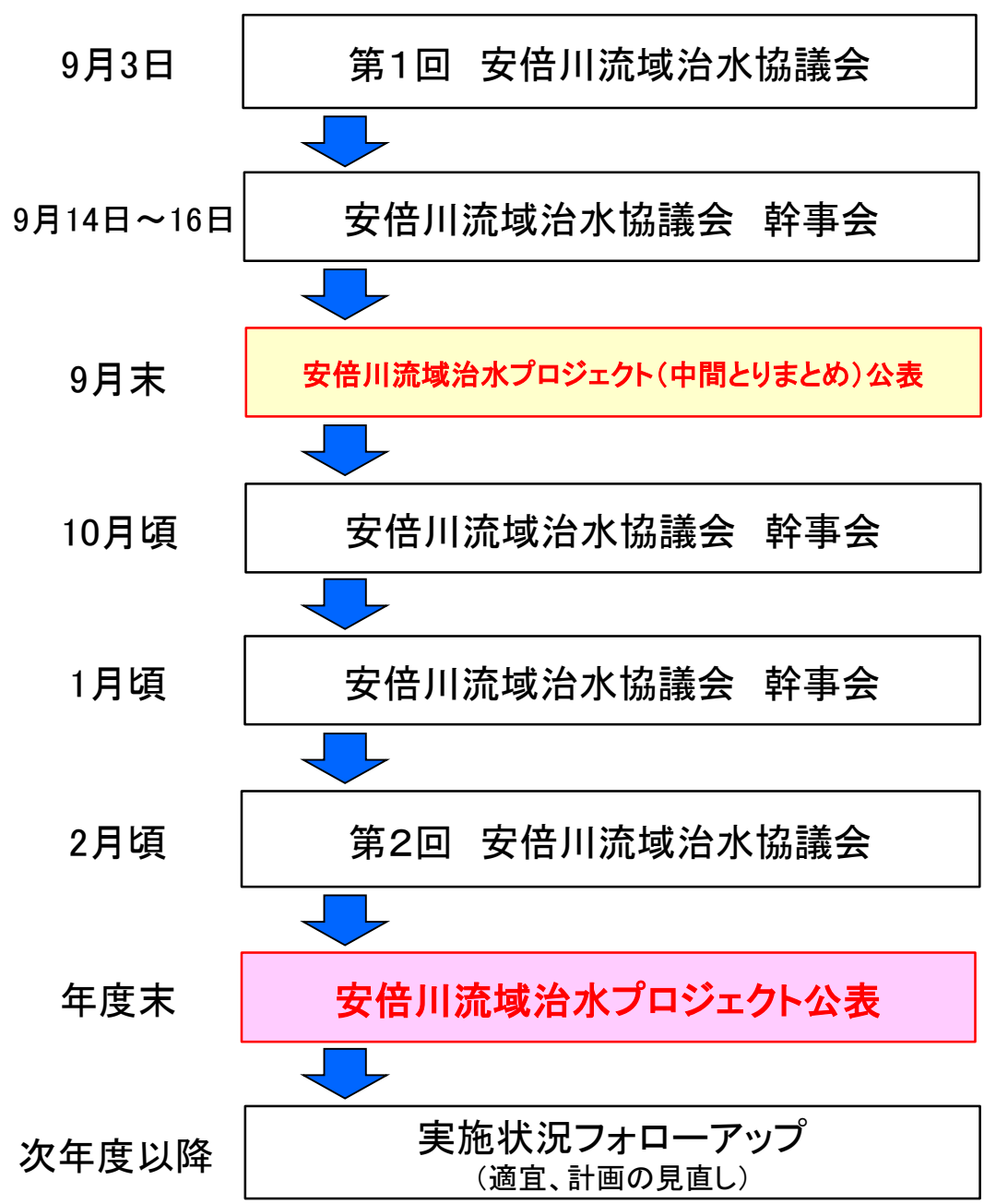
### 2 流域治水プロジェクトへの反映

- ・各地区から抽出された対策（案）を基に、流域全体で取り組んでいく対策を決定し、**流域治水プロジェクトに反映**

### 3 実施状況のフォローアップ

- ・プロジェクトに位置付けられた対策の実施状況について協議会でフォローアップ

# 4. 協議会での検討事項と今後の進め方 3/3



- 安倍川流域治水協議会の設立
  - ・設立趣旨、規約の確認
  - ・「安倍川流域治水プロジェクト(中間とりまとめ)」に掲げる、対策について
  - ※県、各市町は抽出した対策の中から目玉となる対策を報告
- 安倍川流域治水プロジェクト(中間とりまとめ案)の検討
  - ・県及び各市町の対策を基に中間とりまとめ案の提示
- OHPにて流域治水プロジェクト中間とりまとめを公表
- 安倍川流域治水プロジェクト(案)の検討
- 安倍川流域治水プロジェクト(案)の策定
- 安倍川流域治水プロジェクトの策定
- 安倍川流域治水プロジェクトに基づく対策の実施状況フォローアップ

※今後の検討状況等により、変更となる場合があります。